

事業番号	046
------	-----

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	姉妹都市・友好都市交流事業						担当部	市民産業部							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般			担当課	生活交流課						
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降			担当係	交流係						
	総合計画 分野別計画	主目的	1 市民生活			2 交流			3 姉妹都市・友好都市などとの交流を深める							
		副目的														
	予算区分	款	2		項	7		目	3		大	5		中	1	
	根拠法令・個別計画	小牧市姉妹都市、友好都市等交流事業助成金交付要綱														
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	姉妹都市・友好都市との国際交流に関心を持つ市民を対象に、姉妹都市・友好都市との交流を促進し、友好関係を図る。特に将来につながるよう若い世代の交流を促す。														
	内容 (手段)	<p>・ワイアンドット市中学生との交流は23年度から隔年で派遣・受入れを行うものとした。          ・タンザニアへの派遣事業は23年度より見直しのため中止としている。</p> <p>◆24年度実施内容</p> <p>・ワイアンドット市から中学生9名、引率者2名を受入れ。          ・安養市へは、小学5、6年生10名、引率教諭2名の派遣と受入れ事業をそれぞれ実施。          ・『小牧市姉妹都市、友好都市等交流事業助成金』交付の実績は1件であった。          ・小牧地区日韓親善協会の安養訪問に際して100千円を交付した。</p> <p>◆24年度直接経費の内訳          国際交流事業委託金 決算額 2,563千円、その他 223千円          ※下記、その他財源の内訳⇒国際交流事業参加者負担料 190千円</p> <p>※25年度実施内容</p> <p>・中学生ワイアンドット市派遣事業(中学生12名・引率教諭2名)を実施。          ・安養市へは、小学5、6年生10名、引率教諭2名の派遣と受入れ事業を実施。          ・周年記念事業としてワイアンドット市へ姉妹都市提携50周年を記念し、親善使節団(市長・議員・市民・随員職員)を派遣。          ・安養市へは、安養市制40周年記念式典等への招聘事業に市長を団長とする代表団(3名)と、芸術団(10名)を安養市へ派遣。          ※職員は派遣事業に関する連絡手配、受け入れ時の行程作成から添乗等一切の業務を行っている。</p> <p>◆25年度直接経費の内訳          国際交流事業委託料 22,700千円、その他 1,400千円</p>														
	受益者負担	有		児童生徒は、派遣事業の諸経費の3分の1を、一般市民(成人)は3分の2を負担。												

			単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額	
	コスト	費用	直接経費		千円	17,985	5,082	2,786
正職員			従事者数	人	2.00	2.00	2.00	2.00
			人件費	千円	10,660	10,660	10,660	10,660
その他職員			従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
費用合計			千円	28,645	15,742	13,446	34,760	
対前年比		%		54.9	85.4	258.5		
コスト	財源	一般財源		千円	19,017	12,008	13,256	30,493
		国・県支出金		千円	3,522	2,529	0	0
		その他財源		千円	6,106	1,205	190	4,267

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	績	ワイアンドット市派遣事業	人	目標	30	13	—
実績				29	13	—	
ワイアンドット市受入事業		人	目標	8	—	9	—
			実績	8	—	11	
安養市相互交流事業		人	目標	12	12	12	10
			実績	12	0(中止)	12	
成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25	
事業参加者	人	目標	75	25	21	22	
		実績	75	13	23		
		目標					
		実績					

事業の自己評価	平成24年度の実施結果	事業の達成状況	姉妹都市等との交流が将来につながるよう、学生を中心とした交流を実施した。全ての事業で目標の参加人数を達成することができた。				
		事業実施における課題	実施する事業内容について、興味を持つ者(利益を享受する者)が特定の者に偏る傾向にあるので、参加者の満足だけでなく、参加者の体験などがより多くの市民に伝わり、交流の輪が広がるように努める必要がある。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	市民生活に影響が及ぶことではないが、各都市と姉妹都市・友好都市の関係に至った経緯があり、相手市(相手国)の意向を尊重することが重要である。				
	改善内容	平成25年度の	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	児童・生徒派遣事業では全日程ホストファミリー宅でのホームステイを実施することで観光的要素を省き、より現地の人々との交流に重点を置くようにした。			
	平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)			
	判定理由	派遣・受入れにより貴重な経験を得ることができ、市民レベルでの交流にもつなげていけるため、参加者の満足度は非常に高く、今後も実施をしていくに値する事業である。					
	26年度以降の改善案	※前提として、本市並びに相手市の経済状況等を考慮しながら交流は継続。 ・ワイアンドット市との交流については、今後も隔年の派遣及び受入れとする。 ・ワイアンドット市及び安養市への派遣日程について、引き続き観光の要素を省くことで事業参加者が姉妹都市間の交流に努めることができるような事業としていく。 参加者の体験談等をPRし、交流の輪が広がるように努める。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。参加者の満足度だけでなく、参加者の体験などがより多くの市民に伝わり、交流の輪が広がるように努めること。